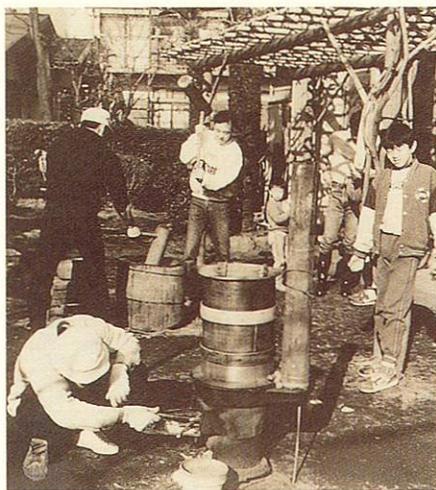


34

一年の行事

■盆と暮れ

季節の移り変わりのなかで、昔から家や地域で毎年繰り返して行われている行事を、年中行事という。そのなかでも「盆、暮れ」という言葉があるように、正月と盆は、一年の大きな区切りであった。正月の行事は、年神様（正月にやってくる神様）を迎えて祀る元旦から数日間をさす大正月と、旧暦の満月にあたる日を中心し、農作物の豊作を願う小正月に分けることができる。盆は、一年に一度、先祖の霊が家に帰ってくる日である。



餅つき 家族が集まり、竈(かまど)で湯を沸かし丸蒸籠(まるせいろう)でもち米を蒸して、白と杵で餅をつく。

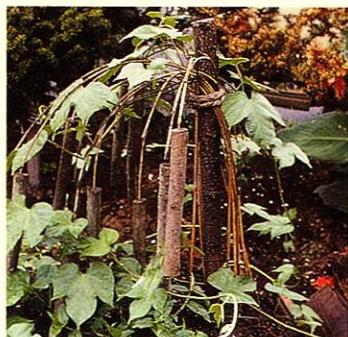
■大正月の行事

正月の準備は、暮れの煤取り(大掃除)から始まる。餅つきは、十二月二十八日に本分家が集まって一緒にすることが多かった。米は貴重だったので、もち米に粟、黍、稗も混ぜた。多い家では一俵(四斗・六〇キロ)ほどつき、お供えとのし餅にした。正月飾りは、一夜飾りを嫌い、三十日まで新しい藁で注連飾りを作った。神棚の隣に、年神様を迎える年神棚をつくる家もあった。大晦日の晩に早く寝ると白髪になるといわれ、多くの家では遅くまで起きていて、除夜の鐘が鳴ると初詣に出かけた。

元日から三日までの三箇日は、年男(家長か長男)が朝早く起



繭玉(めえだま)飾り(中福生 昭和60年) 13日に飾った繭玉は16日に枝からはずすが、このことを繭掻き(または繭もぎ)とよんだ。



粟穂(あほ)・稗穂(へほ)(牛浜 昭和50年代) 庭の堆肥の上にさした粟穂・稗穂。小型のものを座敷に飾る家もあった。

きて、若水を汲み火を起こし、雑煮をつくり、神仏に供え物をした。女性は一年のうちでこの三日間だけは大きい顔をしてゆつくりしていられた。熊川では、昭和三十年代まで謡初め(うたはじ)といって、七日に地域の家長が集まり、その年の年番と庭場の行事を決めた。十一日は、畑作の仕事始めとして鉾入れ(野入れ・うない初め)の行事をする。また、この日は蔵開きで、蔵の扉を開け、七日におろしたお供えを砕いてつくった雑煮を、蔵のなかにお供えする。

■小正月の行事

十一日には、小正月の物作り(ものづく)といって、粟穂(あほ)・稗穂(へほ)をつくる。ニワトコ、ヌルデ、合歡(ねむ)の枝などを、一五センチほどに切って皮を半分むき、細く割った真竹の先にさして一〇本くらい束ね、堆肥に立てる。豊作を祈るもので、魔除けにもなるという。養蚕(やうさ)がさかんだったころは、よい繭(め)がたくさんとれるようにと、繭玉(めえだま)飾りの行事(まじり)がさかに行われた。十三日に、繭(め)の形にした大小の団子(だま)をつくって、柘植(つげ)、梅、櫻、柳などの木の枝(えだ)にさし、石臼(いす)の穴に入れて座敷に飾り、蚕(さ)の神様の掛け軸(かざり)などに御神酒(みかみ)と灯明(とうめい)を供えた。また、この日には成り木(なりき)責め(せ)といって、庭(にわ)の実(み)のなる木(梅、柿、栗など)の幹(かみ)を鈍(な)で子どもに軽く叩(たた)かせ、「(実が)なるか、ならねえか、ならねえとぶった切るぞ」「なるというから、よーせよ」と唱(な)えた。

太平洋戦争前まで、熊川の南・内出地区では、七日に賽(せ)の神(かみ)を祀(まつ)る柱(はしら)を立て、子どもたちが正月のお飾りや古いダルマを集めて回り、古くは柱の近く



恵比須講の供え物(加美 昭和60年)

につくった小屋にそれをくくりつけた。十三日に柱を倒し、十四日の早朝に、その小屋に火をつけて燃やした。この火で繭玉団子を焼いて食べると風邪を引かないといった。十五日は嫁が里帰りをする日、十六日は地獄の釜の蓋が開く日で閻魔の休日といい、仕事を休み、小豆飯を炊く。十七日は山の神の日で、山に入ってはいけない。一月と十月の二十日は恵比須講で、恵比須・大黒様に尾頭つきの魚などのご馳走をあげ、お金がふえるようにと一升杓に家中の財布を入れてお供えする。

■お盆様

西多摩地域では、盆を「お盆様」とていねいによぶことが多い。福生市域では、大正末期まで、盆は八月二、三、四日であったが、一日に八雲神社のお祭があり、蚕の忙しい時期とも重なるので、各地区の話合いの結果、現在の七月十三日から十六日になったという。

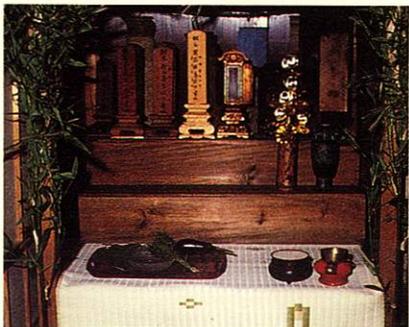
盆様迎えをする十三日の午前中から、盆棚をつくる。棚の内側には仏画を掛け、棚の上に先祖の位牌を出しておく。精霊の乗物となる茄子の馬をつくり、水とその年にとれた小麦でつくったそうめんとかしまんじゅう、初物の野菜、ミソハギの花などを供える。夕方、家の門口で麦稗に火をつけて、「盆様 盆様 お迎え申す」と子どもたちも一緒に唱えて先祖を迎える。十五日または十六日に寺で施餓鬼供養が行われ、十六日は一月と同様、地獄の釜の蓋が開く日といい、仕事を休み、墓参りに行く。奉公に行った者も、嫁も里帰りする。十六日の夕方、送り火を焚いて盆様送りをする。このとき、「盆様 盆様 お送り申す」と唱える。この日は、閻魔の赤飯あかひしといって小豆飯を炊き、これを仏につけて送る。



④ 精霊の乗り物の茄子の馬と束ねたミソハギ
(水に浸して供物にかけるときに使う)。



① 盆棚の上部にめぐらす縄をチガヤでなう。



⑤ 盆棚の内側に仏画を掛け、仏壇から出した
先祖の位牌を置く。



② 今年出た新しい竹(ニイコ)を用意する。



⑥ 家族で迎え火を焚いて、お盆様を迎える。



③ ニイコを棚の左右に立てる。昔は四隅に立
てた。

盆棚をつくり、お盆様を迎える(志茂 昭和57年)

中旬頃	<ul style="list-style-type: none"> 水祭…*熊川村全体で雹除け、豊作等を祈願する。太神楽や曲芸、買芝居等もあり 	4/10 下旬	<ul style="list-style-type: none"> 熊川神社春祭 蚤日待ち…*団子とけんちん汁を作る *おしらの様を飾る(1家はしない) 煤取り…*空室の畳を上げる(昭和35年まで)
5/5 下旬頃	<ul style="list-style-type: none"> 端午の節句…*他の節句と同様人々が訪れる *柏餅を作る 田植祝い…*手伝いの人を招いて日待ち 	5/5	<ul style="list-style-type: none"> 端午の節供…*五月人形、鯉織(昭和30年まで) *しょうぶ湯に入る(ク) *しょうぶを屋根にさす(昭和20年まで) *赤飯、柏餅を作る(ク)
6/15 下旬頃	<ul style="list-style-type: none"> 天王祭…*八雲神社の祭礼 *毎年必ず行われた 夏上がり…*嫁の里帰り(赤飯を土産に帰宅の記述あり) 	6/ 中下旬	<ul style="list-style-type: none"> 夏上がり…*嫁の里帰り(1家では行わない) *まんじゅうをふかす(ク) *シキセする(ク) 水無月載い…*お載いをする(ク) *神社からカタシロをもらい、納める(ク)
7/7 7-15 13 15 16 16 15・16 下旬頃	<ul style="list-style-type: none"> 七夕…*夜、うどんを作って祝う 盆行事…*施餓鬼供養(千手院) *迎え火を焚く *盆礼…*庭場の人、親類等来る *盆棚をかたずける 中元祝儀…*素麺、白瓜、茄子、小麦等贈答 宿下がり…*奉公人が家に帰る 大山講代参…*文政4年(1821)などに記述あり 	7/ 13~16 31	<ul style="list-style-type: none"> 盆行事…*盆棚 *迎え火/送り火 *お施餓鬼 *敷入り(昭和20年まで) 盆礼…*素麺のやりとり(昭和30年まで、現在は中元となる) 天王様の祭…*宵宮(現在は土曜日)
8/15	<ul style="list-style-type: none"> 月見(十五夜)…*うどんなや蕎麦を作る 風祭(二百十日~二百二十日の間) …熊川村全体の祭で、湯花、太神楽、角兵衛獅子なども行われた 	8/1	<ul style="list-style-type: none"> ク…*本宮(現在は日曜日)
9/13 19 28頃	<ul style="list-style-type: none"> 月見(十三夜) 秋の彼岸…*彼岸の入りで饅頭を蒸す *うどんを寺へ届ける *彼岸明けに蕎麦を作る 重陽の節句…*他の節句と同様人々が訪れる 秋の日待ち…*正月の日待ちより規模が小さく、寺の住職や修験、近所の人を招き祈祷が行われる 	9/1 19 21 22	<ul style="list-style-type: none"> 八朔(旧8/1)…*まんじゅうを作る(昭和30年まで) 風祭…熊川神社の秋祭 神明社の秋祭(現在は日曜日) 秋の彼岸…*春の彼岸と同じ 十五夜(旧8/15)…*団子15個を月に供える(昭和30年まで) *子供が団子をもらい歩く(昭和20年まで)
10/20 下旬頃	<ul style="list-style-type: none"> 恵比須講…*1月と同じ 三峰講代参…*村全体で行われ榛名講に次いで記述が多い 	10/9 20 31	<ul style="list-style-type: none"> 支の子…*支の子のはたもちを作る(昭和30年まで) 十三夜(旧9/13)…*団子の数は13個であとは十五夜と同じ(昭和30年まで) 恵比須講…*1月と同じ オカマサマ…*オカマの団子(小36個)を荒神様に供える(昭和30年まで)
下旬一 11上旬 11/19	<ul style="list-style-type: none"> 麦蒔き祝い…*麦蒔きが終わると手伝いの人を招き日待ちをする 三峰講日待ち 	11上旬 ~中旬 11/15	<ul style="list-style-type: none"> 麦蒔き祝い…*どじょう粥を夕食に食べる(麦を作っていた昭和20年まで) 帯解きの祝い(七五三)…*男女7歳の祝い
12/1 8 24 26 28 30 下旬頃	<ul style="list-style-type: none"> 毎年餅をつく 毎年何らかの行事を行っている カマシメ 煤払い 餅つき 大晦日…*庭場の人などが歳暮の祝儀に訪れる 晦日市…*正月に必要なものを買ひ揃える 歳暮祝儀…*蛙、うど、酒粕などの品物のやりとり 	12/1 8 22 下旬頃 28 30 31	<ul style="list-style-type: none"> 川浸り(馬の正月)…*大福を作る(1家では行わない) 師走八日…*かぶ団子を作る(昭和44年まで) *鬼が下駄に判を押す(ク) 冬至…*ゆず湯に入る *砂はらいのこんやく、南瓜を食べる 煤取り 餅つき 正月準備…*年神棚を作る(昭和38年まで) *オカマジメ(しめ飾り)をする *お供えをあげる 大晦日…*ヤクハライをする *ナスガラを燃やす(昭和47年まで) *年越し蕎麦を食べる(1家では白飯) *火難除けにヒジロにおにぎりを置く(昭和47年まで) *こんやくを食べる *除夜の鐘まで起きている

*「福生市史」上巻P814~P833、P1038~P1039より作成

石川家(熊川村)名主日記にみえる年中行事 1818(文政元)～1838(天保9)年		I家(福生・加美地区・農家)の年中行事 1991(平成3)年調査	
月日	行事内容	月日	行事内容
(旧暦) 1/1	<ul style="list-style-type: none"> ・年始…庭場の人、親類縁者、手習いの弟子等との挨拶のやりとり ・恵方参り…鎮守の礼拝明神(熊川神社)、八幡宮等に参る 	(新暦) 1/1 ～3	<ul style="list-style-type: none"> ・(*注記がないものは調査時に行われていた行事) ・戸主が年男として、若水汲み、朝食準備、神仏へ供え物をする ・年始 ・初詣…神明様、金毘羅様に参る
2	<ul style="list-style-type: none"> ・謡初…庭場の初寄り合い 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・寺年始…礼拝明神(熊川神社)の神主、千手院、真福寺、福生院の僧等が訪問 		<ul style="list-style-type: none"> ・神社、寺年始
5頃	<ul style="list-style-type: none"> ・尾州鷹場礼改め…立川陣屋にて 		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・七草…前日に芹摘みの記述もあり ・子供達がさいの神の賽銭集めに來る 	7	<ul style="list-style-type: none"> ・七草…*七草粥を作る(I家では行わない) *爪を切る日(昭和30年まで行った)
11	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵開き ・拙懸(餅入れ、うない初めか)…雑煮で祝う 	11	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵開き…蔵を開けお供えをする(昭和40年まで) ・餅入れ…*弊束を畑にたてる *二餅、三餅さくる(I家では行わない) ・アボヘボ…粟穂、稗穂をたてる(昭和40年まで) ・若餅つき…(昭和30年まで) ・蒟玉飾り…(昭和40年まで) ・成り木責め(I家では行わない) ・塞の神…(昭和20年まで) ・小正月…*嫁の里帰り *小豆粥を食べる(I家では行わない) *藪入り ・閻魔の赤飯(I家では行わない) ・墓参り(I家では行わない) ・山の神…*山に行かない(昭和40年まで) *山に供え物をする(I家では行わない)
14	<ul style="list-style-type: none"> ・蚕祭…*蒟玉を飾る *蚕日待ちを行う年もあり 	12	
15	<ul style="list-style-type: none"> ・小正月…*庭場の人達が祝賀に訪れる *かゆを食べる *奉公人の宿下がり 	13	
20	<ul style="list-style-type: none"> ・恵比須講…ほとんど毎年行われ、昼は小豆飯、夜は蕎麦を食べる 	14	
下旬頃	<ul style="list-style-type: none"> ・正月の日待ち…親しい人を招き、うどん、蕎麦等を作ってふるまう 	15	
立春の前日	<ul style="list-style-type: none"> ・節分…村内での豆まきの記述あり(石川家では豆まきは行っていない) 	16	
2/2	<ul style="list-style-type: none"> ・出代わり…年季奉公人を家に返し、新たに契約する日 ・この日を事納めと記している 	17	
初午	<ul style="list-style-type: none"> ・稲荷講…*南の庭場の稲荷様を祀る *年当番は二名で、文政6年(1823)の記録では、米、ゴマメ、豆腐、卵、鰯、酒、醤油等を買って24軒で37文ずつ負担した 	20	<ul style="list-style-type: none"> ・恵比須講…*赤飯、尾頭付き膳を供える *財布を餅に入れ供える ・二十日正月 *羽子板をしまう
3/3	<ul style="list-style-type: none"> ・上巳の節句…*正月同様人々がお重などを持ち祝賀に訪れる *石川家からはお重や蛤を届け、餅撒きも行う 	2/3	<ul style="list-style-type: none"> ・節分…*豆まき *ヤッカガシ
7～8頃	<ul style="list-style-type: none"> ・榛名講代参…村全体で毎年行う ・御嶽講代参…文政6年(1823)に記述あり ・戸隠講代参…お札を配る人の來村記述あり 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・事八日…*メケエ(目籠)を戸口に出す *鬼が判を押すので下駄をしまう(昭和40年まで)
下旬頃	<ul style="list-style-type: none"> ・春の彼岸…*墓参りに行く *寺へ念仏に行く *中日に蕎麦を作る *彼岸明けに草摘みに行く 	11	<ul style="list-style-type: none"> ・稲荷講…*五色の旗をあげる(初午) *めごしを焼いて食べる *赤飯を炊き飲食する(昭和30年まで、稲荷様が移転したので行わなくなった)
3/3	<ul style="list-style-type: none"> ・三月の節供…*ひな人形を飾る(ひなまつり) *餅をついて菱餅を作る *嫁が里帰りをする 	3/3	<ul style="list-style-type: none"> ・春の彼岸…*墓参りに行く *寺へ行く(はたもち持参)(I家では行かない)
7～8頃	<ul style="list-style-type: none"> ・榛名講代参…村全体で毎年行う ・御嶽講代参…文政6年(1823)に記述あり ・戸隠講代参…お札を配る人の來村記述あり 	20	
下旬頃	<ul style="list-style-type: none"> ・春の彼岸…*墓参りに行く *寺へ念仏に行く *中日に蕎麦を作る *彼岸明けに草摘みに行く 		
4/3	<ul style="list-style-type: none"> ・煤払い…*糞蚕を始める準備 *蒟玉を作る年もある 	4/3	<ul style="list-style-type: none"> ・神明社春祭 ・花祭…*甘茶をもらいに寺へ行く(I家では行かない) *草餅を作る(昭和30年まで)
上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・水神祭…川漁が始まる前に貼取り仲間日待ち等を行う 	8	

年中行事の比較表